

巻頭特集

次の世代につなげる
～23区の推しごと～
第1回 品川区

「しながわ防災区民憲章」で広げる自分事化

「自助・共助のさらなる向上を目指して」

品川区では、東日本大震災から15年の節目にあたる令和8年3月11日、都内自治体初となる「しながわ防災区民憲章」を制定しました。これは、平成26年に制定した「品川区災害対策基本条例」の前文の趣旨を踏まえ、防災意識のさらなる向上と次世代への継承を目的としたものです。その経緯と普及の取組について紹介します。

区民一人ひとりの自助・共助の意識を一層向上させたい

東日本大震災被災地の視察が 防災区民憲章制定のきっかけに

「しながわ防災区民憲章」制定の原点にあるのは、令和7年6月の森澤区長による岩手県宮古市田老地区への視察です。東日本大震災の被災地である現地を視察し、実際に被災された防災ガイドの話聞いた区長は、自助・共助の必要性を改めて認識。「公助の取組と併せて区民一人ひとりの自助・共助の意識をより一層向上させたい」との思いを新たにし、防災区民憲章制定へのきっかけとなりました。

品川区ではかねてより、品川区災害対策基本条例を通じて自助・共助の必要性を区民に伝える取組を行っていま

したが、条例だけではなかなか浸透しない現状があったことも事実です。防災区民憲章は、その課題解決の一手としての期待も込められたものでした。

区民から意見を募り、 「品川らしさ」が反映された 防災区民憲章

「しながわ防災区民憲章」の大きな特徴は、区民から広く意見を募り、憲章に反映させた点です。

区では、区長の視察から間もない令和7年7月、制定に向けて区長と有識者の懇談会を実施しました。それを皮切りに、デジタルプラットフォーム「しなトーク」やワークショップでの意見収集、個別のアンケートなど、さまざま

まな手法で区民からの意見を収集。回答をAIで分析し、区民がよく使う言葉や、関心の高いフレーズを抽出し、憲章に反映させました。

例えば、二つ目のキーワード「あいさつする」には、「弱いつながり(ウィークタイズ)が重要」という意見が映し出されています。品川区は、区民の約8割が集合住宅に暮らし、地縁を作り

にくい側面もあります。いきなり親しくなるのは防犯上も難しいため、まずはあいさつから、ゆるやかなつながりづくりを始めようという意思表示は、防災区民憲章に「品川らしさ」を加えています。

また、防災区民憲章の行動指針で風水害に言及している点も「品川らし

さ」です。区内には目黒川、立会川が流れ、令和7年9月の豪雨では立会川が氾濫するなど、豪雨(最大時間雨量約120mm)による床上・床下浸水の被害が発生しました。この教訓を生かし、地震だけではなく風水害への備えを呼びかけている点も、「しながわ防災区民憲章」の大きな特徴です。

4つのキーワードに込められた 思い

「しながわ防災区民憲章」は、大きく4つのキーワードで構成されています。「備える」は自助、「あいさつする」は共助、「伝える」は次世代への継承を呼びかけるものです。

「行動する」は、主語をあえて「私

しながわ防災区民憲章

災害から私たちの命と暮らしを守るため、自助・共助の重要性を次の世代に引き継いでいくという決意の下、私たち品川区民は、ここに「しながわ防災区民憲章」を定めます。

備える

災害はいつ起こるか 分からない
備えることは 特別なことじゃない
私は備える 私やあなたを守るため

あいさつする

いざという時は 地域の人が頼りになる
小さなつながりが 大きな力になる
私はあいさつする 地域とつながるため

伝える

過去の災害から 多くを学んだ
どう備えるのか どう助け合うのか
私は伝える 次の世代に引き継ぐため

行動する

力を合わせて 防災力を高めよう
訓練に参加して 地域とつながろう
私たちは行動する とともに乗り越えるため

「しながわ防災区民憲章」行動指針

品川区は、臨海部と台地のほかに、区内を目黒川と立会川が流れています。令和7年9月11日の豪雨では立会川が氾濫するなど、地震だけではなく、風水害への対策も必要です。品川・大崎・大井・荏原・八潮の5地区それぞれの地域特性に応じた災害対策を進めましょう。

●備える

災害はいつ起こるか 分からない

災害はいつ、どのように発生するか誰にも分かりませんが、備えることはできます。また、防災に関する知識を学ぶことも非常に重要です。備えと防災に対する学びを積極的に行いましょう。

備えることは 特別なことじゃない

在宅避難ができるように、家具の転倒防止や1週間分の備蓄を行いましょう。食品や生活用品を少し多めに買い置きする「ローリングストック」により、無理なく備蓄することができます。また、散歩しながら避難経路や街頭の消火器などの場所を確認しましょう。

私は備える 私やあなたを守るため

誰にでも、命を守りたい「あなた」がいると思います。家族やパートナー、ペットなど、人それぞれです。自分だけではなく、大切な「あなた」も守るため、備えましょう。

●あいさつする

いざという時は 地域の人が頼りになる

災害が発生した時、まず助けの手を差し伸べることができるのは、隣近所の地域の人たちです。防災訓練などの町会・自治会の活動に参加して、日頃から地域とつながりましょう。

小さなつながりが 大きな力になる

私はあいさつする 地域とつながるため

平成28年熊本地震では、日頃あいさつしなかった住民同士が、災害時には助け合う関係になったといわれています。まずは小さなつながりである「あいさつ」から始めることで、地域とのつながりを深めていきましょう。

●伝える

過去の災害から 多くを学んだ

どう備えるのか どう助け合うのか

阪神・淡路大震災や東日本大震災、平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震などの日本各地で発生した大地震のほか、令和元年の東日本台風や令和7年9月11日の豪雨などの区内に被害をもたらした風水害も含め、改めて過去の災害から多くの教訓を学びましょう。

私は伝える 次の世代に引き継ぐため

過去の災害から学んだ教訓を次の災害に生かすために重要なことは、子どもたちなど次の世代へ教訓を引き継ぐことです。そのために、教育やイベントなどを通じて、防災の知識だけではなく、自分で考え、行動できるように伝えていきましょう。

●行動する

力を合わせて 防災力を高めよう

災害対策では、自助・共助・公助の連携が重要です。また、区・区民・防災区民組織・事業者などの様々な主体がそれぞれの責務や努めを認識し、互いに連携・協力しましょう。

訓練に参加して 地域とつながろう

様々な主体が連携するため、防災訓練などに参加することから始めましょう。そして、あいさつによる小さなつながりをさらに深め、互いに助け合える関係性を築きましょう。

私たちは行動する とともに乗り越えるため

品川区災害対策基本条例に「総力を結集して『しながわの防災力の高度化』を図ることが重要」と示しているように、命を守るために様々な主体がそれぞれの立場から行動することが重要です。一人ひとりが力を合わせて「私たち」みんなが行動し、共に助け合い、命を守り抜きましょう。

たち」としています。これは、命を守るためにさまざまな主体がそれぞれの立場で協力することを意図しているからです。品川区災害対策基本条例の理念である自助・共助・公助の役割をそれぞれが果たし、総力を結集して「しながわの防災力の高度化」を図ることを表現しています。

行動指針にも区民の意見を反映

憲章に加えて、具体的な行動につなげるための行動指針も示しています。この指針にも区民の意見が反映されており、自分事として自助・共助を捉え、日頃からの備えに結びつけてもらうことを目指しています。

例えば「自助」では、「備蓄」や「ローリングストック」など事前の備えや避難場所の確認を重要視する意見を反映。 「共助」では、日頃から顔の見える関係を大切にすること、町会や地域とのつながり、支援が必要な人へのケアに関する意見も盛り込んでいます。

「次世代への継承」については、防災をより親しみやすく、分かりやすく伝えるという意識の必要性や学校での防災教育、防災訓練や防災イベントへの参加を重要視する意見を反映しています。

「しながわ防災区民憲章」を普及させるための取組

何度も目にし、 唱和して自分事化する

「しながわ防災区民憲章」の周知と普及を図るために、区ではさまざまな取組を実施しています。区内の公的施設や区立学校などに、「しながわ防災区民憲章」を提示していることもそのひとつです。

また、地域の防災イベントや訓練で、憲章を唱和してもらうことも働きかけられています。令和8年3月11日に開催された防災区民憲章制定記念式典では、区内の児童・生徒が憲章を唱和し、来場者にとっても、記憶に残るものとなりました。

イベント×防災訓練×防災区民 憲章の啓発

区では区民まつりなどのイベントと防災訓練を組み合わせて、楽しみながら防災を学べる仕組みづくりを行っています。

子どもや親子の参加が見込まれる区民まつりと防災訓練を同時開催することで、楽しみながら防災に触れ、行動につなげることができると、この機を活用して防災区民憲章の周知、普及に向けた広報活動を検討しています。

安否確認タオル×防災区民憲章

防災グッズとして普及している『安否確認タオル』は災害時に近隣の方へ

無事を知らせるためのものです。区では安否確認タオルに防災区民憲章をプリントし、地域で安否確認訓練を行う際にこのタオルを提供する取組を進め

ています。防災区民憲章の周知とあわせて、地域が主体的に行う共助強化の取組を区として支援していきます。



「しながわ防災区民憲章」制定記念典で児童・生徒による防災区民憲章の唱和



区民まつりと同時開催した総合防災訓練の町会対抗バケツリレー

しながわ防災ジュニア
プロジェクトを活用、
学校現場でも普及を促進

学校教育と連動しての周知・普及も

品川区が進める防災の取組

LINEを活用した

避難者把握システムの実証実験

品川区は、防災区民憲章の制定やしながら防災ジュニアプロジェクトのほかに、23区内で初となるトイレネットワークの導入と災害派遣トイレネットワークへの参加、水循環型シャワーの導入など、先駆的な取組で注目されて

重要です。

品川区では、区内の中学生にわかりやすく防災を学んでもらうことを目標とした教育プロジェクト「しながわ防災ジュニアプロジェクト」を実施して

います。

令和7年8月には、新たな防災DXの取組として、LINEを活用した避難者把握システムの実証実験を行いました。友だち登録し、アンケートに回答することで、避難所への受付をスマホで行うというものです。

従来の紙を使った受付は、膨大な事務処理負担、個人情報保護への懸念、

います。自助・共助の重要性とその防災意識を次世代に継承していくため、防災区民憲章を通じ、若い世代へ向けた啓発の準備を進めています。

また、防災区民組織、事業者、区民

迅速な避難者把握の面で課題がありました。その課題を解決するものとして、令和8年秋ごろのリリースを目指し、避難所運営者への説明やシステム構築などを進めています。

楽しく親しめる防災活動で啓発

しながわ防災キャラクターの「ジージョくん」は、防災の基本理念である

を対象として実施している「しながわ防災学校」でも、防災区民憲章のコーズを導入する予定です。

「自助」が名前の由来です。普段は、区役所第二庁舎2階「しながわ防災体験館」で来館者を出迎えています。防災に関するさまざまなイベントや広報活動でも活躍しています。

しながわ防災体験館では、月2回の頻度で日曜日に「親子で楽しく防災ワークショップをしよう！」を開催しています。小学生以下の子どもたちを対象にし、起震車体験やロープワークでアクセサリー作り等の親子で楽しめるワークショップを開催。ハードルが高いと思われる防災を気軽に楽しめるイメージとして伝えています。

品川区ではこれからも「しながわの防災力の高度化」に向けて、様々な主体と協力し、多角的な視点から、多種多様な防災対策に取り組んでいきます。



LINEを活用した避難者把握システム実証実験の様子

しながわ防災キャラクター ジージョくん

種別：カメ
普段から日頃の備えを行っている地道な努力家。
装備：特殊な甲羅
甲羅には防災グッズを格納。

